

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	株式会社 経友会	代表者	山本 正成	法人・事業所の特徴	小学校、保育園であった歴史のある場所を使って地元住民に愛される事業所を目指して、「持ちつ持たれつ」の「結い」の精神を事業運営に取り入れている。山間の和やかな自然環境の中、ゆっくりと一人ひとりのご利用者に向き合い、その人その人の「あたりまえの実現」を理念に掲げている。
事業所名	藤の里「結い」 小規模多機能ホーム	管理者	伊藤 篤司		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	1人	4人	0人	1人	1人	0人	3人	1人	10人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	現在も事業所の現状など発表しているが、今後より評価して頂きやすいよう詳細の説明ができるようにしたい。	年に一度の取組みだが、徐々に浸透していき意見もいただきやすくなってきた。	自己評価や公表など活発にできていると思うといった意見をいただいた。	現状、評価に参加できるスタッフが少ないので、より多くのスタッフに参加していただき、多くの意見を取り入れるようにしたい。
B. 事業所のしつらえ・環境	事業所の環境整備についての情報を気軽に公開できる。また案内していく。例HPなどに私設公園を整備したので気軽に立ち寄って頂ける案内を出す等。	HPへの案内提示を毎回出来ていないこともあり。運営推進会議でSNSを利用したり、メール配信など使ったらどうか？の意見をいただくこともでき、現在模索中である。	施設公園に子供を連れてきたが、喜んでいた。こういったものがあるといいと意見いただく。	運営推進会議でいただいた意見を取り入れられ、より「結い」の事や案内を発信できるようにする。
C. 事業所と地域のかかわり	前年にもできていないといった評価があり、全職員が基本的な挨拶を元気よく行えるようにする。また、積極的に行事に参加するようにする。	行事・イベント参加には一部の職員に偏ってしまうことが多くみられる。あいさつ等は行えている。	たくさん職員はいるが、行事・イベントに参加には職員が偏っており、職員の顔が覚えられない。また、お互いに顔が覚えられようになるといい。	前年に続き行事等の参加できる職員を増やし、地域の方々と互いに面識を持てるようにする。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	一部の職員に偏らず、全職員誰が対応しても気軽に外出にお誘いができる。	なかなか外出が出来ない時もあったが、ドライブや、花見、買い物など気軽に出られる機会が増えた。	特に意見はなく、問題ない様子。	ご利用者の方の多数の意見を取り入れた活動を増やす。
E. 運営推進会議を活かした取組み	事業所として、地域に協力できる新たな役割を作り、担っていきたい。	新たな役割については、まだ実現できてないが、こういったものがあるといいといった意見交換が行えている。	地域での取り組みを行うにあたって、地域側でも実行委員のような存在が必要になると思うが、委員になる者はいないと思われる。地域の心配なかたについての質問は、その人のプライバシーにかかわるのではないかとまた事例がない。といった意見をいただく。	実行に移すことには時間がかかると思われるが、地域のニーズや意見をたくさん拾える環境を保持できる。
F. 事業所の防災・災害対策	防災訓練を運営推進会議中に行い一緒に参加して頂くことで、事業所だけの意見に留まらず多くの意見を取り入れられるようにしたい。	運営推進会議日に避難訓練を実施しており、意見をその都度聞ける環境になった。	藤全域ではなく、所在地区の避難場所に指定してもいいのでは？ 外用のブザー音がもう少し大きいほうがいい。	災害時、地域との協力を円滑にできるよう、地域の災害時の対応を職員も把握していける。

